

2015年(平成27年)1月26日(月) NO 82号

# K-PURO NEWS

## 【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	<a href="http://www.k-puro.co.jp">http://www.k-puro.co.jp</a>
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県川口市芝塚原 2-3-11 エステートミア	TEL 048-261-3412
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

## 【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ設置	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

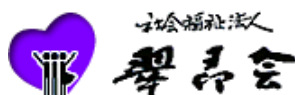
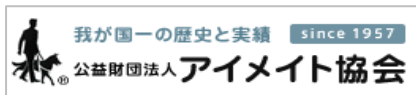


## 【加盟団体】



RID2770	川口モーニングロータリークラブ	<a href="http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/">http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/</a>
NPO 法人	さいたま起業家協議会	<a href="http://www.saitama-kk.org/">http://www.saitama-kk.org/</a>
公益社団法人	千葉東法人会青年部	<a href="http://www.chibahojin.jp/">http://www.chibahojin.jp/</a>
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	<a href="http://www.rinri-chiba.org/">http://www.rinri-chiba.org/</a>
公益財団法人	モラロジー研究所	<a href="http://www.moralogy.jp/">http://www.moralogy.jp/</a>

## 【応援団体企業】



## ごあいさつ



今年の干支は乙未(きのとひつじ)、音読みでは(イツビ)と言います。乙は、字のごとく、『上から抑え込まれるような外界の抵抗に会い紆余曲折する』という象形文字で、未は、『木の葉が茂りすぎると下が暗くなり枯れてしまうので剪定が必要である』という意味です。(未の一は葉を表す)

すなわち、「障害が強く苦勞する年であるが、それに屈する事なく弾力を保ち、繁茂する枝葉は刈り取り、しっかりと根固めする年である」と故安岡正篤氏は唱えています。

60年前の昭和30年の日本は、左右社会党が統一され、自由民主党が誕生しました。

この年の後半は、神武景気と言われ、電気関係の技術革新が進み活況を呈しました。

そのまた60年前は明治28年。日清戦争に勝利しましたが、講和条約調印後に独・露・仏の三国干渉により遼東半島を清国に返還させられた経緯があります。反面、経済面では、住友銀行、三井銀行が設立開業、輸出産業や商工業も近代化し大きく発展した年でした。

これらを鑑みますと、会社組織では、前半は不合理な外的要因に遭っても決して屈することなく、尚且つ身の回りを整理し骨太になり、後半の飛躍に備える準備をしておくという年回りになります。

さあ、後半に向け、強靱な心を備え、準備を怠らないようにしましょう！ 代表取締役 木戸 良樹

## 今月の良い話 「一生かかって夫婦になる」

A 子さん。

全く思いがけないお便りを頂いて、私は考え込んでしまいました。「離婚」という言葉は、そう簡単に使っていい言葉ではありません。

無論あなただって、考えに考えた末、今のうちに離婚すべきではないかと思われたのですが、でも、本当にあなたには離婚しかないのでしょうか。

あなたは「結婚後の彼は、結婚前の彼ではない」

とおっしゃってられる。どんなふうには違っているのか、私にはわかりませんが、本質的にはそれほど変わっていないのではないのでしょうか……。

例えば、結婚前にはあなたの前でおならをするということはなかったでしょう。

が、結婚後はそうはいかないと思います。結婚前のデートの時など、ご主人はあなたの前で決してあくびをなさらなかったでしょう。でも、今は気軽にあくびもなさるでしょう。

このように、結婚後は心身ともにくつろぐのが当然だと思います。

また家庭というものは、そんなふうに分をさらけ出すことの出来る場でもあるのです。

あなたのお便りの中で、ご主人の食べ方が下品だとか、歯を磨かないで寝るとか、マージャンに熱中しているとか、おっしゃられる。また、自分の身内のことには心を使っても、A さんの肉親には冷淡だと言っている。そして、「結婚前に必ず君を幸せにする」などと言った言葉は空手形だったと憤ってられる。更にあなたはおっしゃる。

「こんな自分勝手な人と、一生暮らさねばならぬと思うと、毎日が憂鬱でたまりません」と……。

なるほど、結婚一年経つか経たぬかの、二十二歳のあなたには、これらのことは重大な問題かも知れません。とは言っても、離婚しなければならないとは、いささか考え過ぎではありませんか。

少しも幸せにしてくれなかったというのは、早過ぎませんか。

ものの食べ方が下品に見えるというのは、それは食欲旺盛な二十五歳のご主人の年齢を考えて、少し酷ではありませんか。

ぺちゃぺちゃと音を立てて食べると言われますが、恐らくあなたの手料理がおいしくて、舌鼓を打って、喜んで召し上がっているのかも知れません。

それを下品だと言われては、何か気の毒な気がしてなりません。

恐らく、結婚前、あなたとのデートの時にも、同じような食べ方を彼はなさったのではないのでしょうか。

が、あなたにはそれが下品とは映らなかった。私はこのことに問題を感じます。

あなた自身心が冷えて、ご主人のすることなすことに、冷たい目を向けているような気がします。

マージャンをすとおっしゃっていますけれど、でも、そのマージャンのために家計が苦しくなったとは、おっしゃってられない。

無論、新婚のあなたには、夜遅くまでご主人を待っていることは、どんなに淋しいことか、私にもわからないわけではありません。

しかし、世間の大方のご主人は、決して三百六十五日、定刻にきちんと帰宅して、妻と楽しむという訳ではありません。あなたは、新婚時代というものは、もっと甘く、二人の生活をエンジョイするものだとして決めたようですね。

でも、それは理想というものであって、現実の世にあって、お宅のご主人は及第点だと思いますよ。また、ご主人が身内のことに冷淡だとあなたはおっしゃる。

それをいいことだとは、無論、私も申しません。これは公平に対すべきことだと思います。



けれどね、A子さん。ご主人はまだ二十五歳なのよ。  
二十五歳という年齢はね、つい何年か前までは、少年だった年齢なのよ。体だけは大人でも、まだまだ幼い年齢なんです。その上、人間は本来、自己中心に生まれています。私はくり返しくり返し、講演や随筆の中で申し上げるのですが、本当に人間は自己中心なものなのです。  
私たちは、自分の大事なものを他人が壊した時には、大いに怒ります。  
だが、自分が壊した時にも大いに怒るでしょうか。多分それほど怒りはしません。  
私もまた、怒らないと思います。壊すという行為は一つでありながら、なぜ他の人には怒って、自分には怒らないのでしょうか。このように、人間は自己中心なものなのです。  
そしてこの自己中心な自分は、あらゆる場面に顔をのぞかせるのです。  
先に述べた肉親に対する問題もその一つです。人間というものの本能を、しっかりと見極めておかなければ、私たちは、あらぬ幻を相手に抱いてしまいます。



.....  
私たちが結婚する時、牧師からこう言われました。  
「式を挙げたからといっても、次の日から夫婦になるのではない。一生かかって夫婦になるものだ」と。  
この言葉は、私たち夫婦に千金の重みをもって迫りました。  
結婚したばかりで、理想的な夫であり、妻であることは至難です。一年生は一年生です。  
最近私は、こんな意味の言葉を聞きました。  
「男はその母によって育てられ、妻によって人間になる」

この言葉は、男を女に、妻を夫に置き替えることも出来ると思います。つまり、男も女も、母親のもとにあるうちは、まだ育てられている状態なのです。完全に育てあげられたわけではないのです。  
人間として熟成するためには、夫の愛、妻の愛が必要なのでしょう。  
「自分が耐えていると思う時、相手も耐えているのだ」  
という言葉もあります。結婚後一年が、意外と相手に失望する時期なのです。  
この期間が、ある意味で一番大きな危機かも知れません。  
相手に描いた幻が、一つ一つ音を立てて消えていく時かも知れません。

.....  
でもね、A子さん。あなたの結婚した相手は神さまではないのよ。完全ではないのよ。  
言ってみれば平凡な一人の人間なのよ。短所もあるけれど長所もある人間なのよ。  
自己中心でどうにもならぬようであっても、ある時は思いがけぬ優しさを示す人間でもあるのよ。  
あなた自身だって、決して神さまのように完全ではないでしょう。  
A子さん、結婚というものはね、いやになったら別れればよいという、そんな安易な気持ちでするべきではないのよ。  
一生を共にするという事は、お互いの長所も短所もひっくるめて、お互いに背負っていくことだと思うの。  
私の知人の中には、何人も何人も女をつくった夫を、幾度も許して、とうとう平和な家庭を取り戻した人もいるし、アルコール依存性のご主人に、毎夜のように殴られ、蹴られながら、何とかしてそれを治してあげようと、必死に毎日を生きている方もいます。  
私には到底耐えられない生活に耐えている姿を見ると、  
私は、「一生かかって夫婦になる」という言葉の重さを、改めて思わずにはいられなくなるのです。  
A子さん、もう少し人間というものを考えてみましょうね。  
結婚というものを、改めて見直してみましようね。聡明なあなたのことですから、このお返事はもう不要になっているとは思いますが、あえて認めてみました。心からお幸せを祈り上げつつ。

////////////////////////////////////  
記事提供 故三浦綾子氏 藍色の便箋より

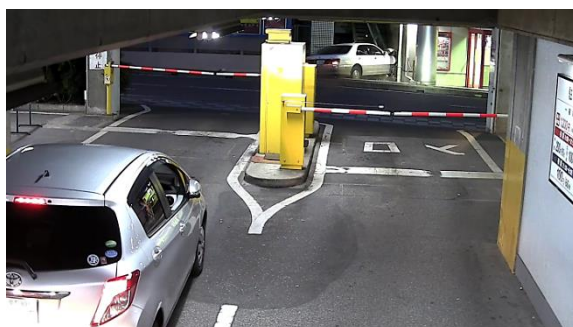
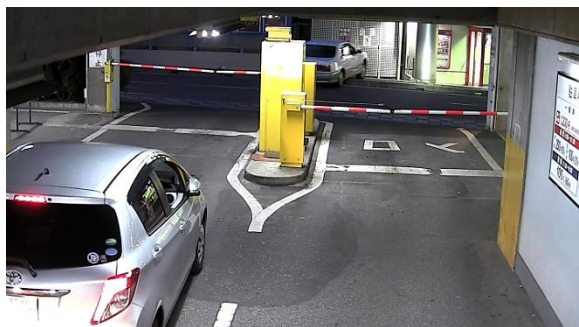
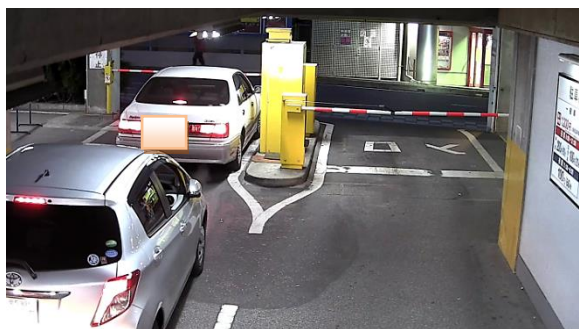
## 事件ファイル NO82 飛び込む車

日時 平成 26 年 12 月 12 日(金)16 時 40 分頃

場所 千葉市中央区(コインパーキング)

内容 年配の男性が運転する車が、駐車料金を精算する際に、ブレーキとアクセル操作を誤り、いきなり静止バーを押し上げ、道路反対側のパチンコ店の倉庫へ歩道を乗り越え飛び込んで行った。車内には、助手席と後部座席の計 3 名で乗車していたが、後部座席の方が救急車で運ばれた。前面道路は駅に近く、比較的人や車の多い通りだが、その瞬間は、たまたま人車の通りがなく、大惨事には至らなかった。相当な勢いで発車したため、車両前部分が大破した。

\*カメラ映像は、200 万画素フルハイビジョンカメラにて録画したもの



## プロ太の小話集 NO82 『 100g のクッキー 』



あるご婦人がパン屋に飛び込んで来た。彼女は怒りにまかせてまくし立てた。  
「あーた！今朝、こちらで、うちの息子にクッキーを 200g 買ってこさせましたの。  
そうしたら 100g しかございませんでしたのよ！  
あーた！お店の量りの調子を確かめた方がよろしいではなくって！」

パン屋は、このご婦人をしばし冷静に見たうえで、こう答えた。

「いやー、どうでしょう。奥様の方こそ、お子さんの体重を量ってごらんになられた方がよろしいと思いますよ。」



今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？

友人知人の中にも、性格？の不一致で離婚されたご夫婦があまりにも多く、やまやま残念でなりません。「夫婦喧嘩は犬も食わない」と言う諺がありますが、真の原因は当事者同士でなければわかりません。平成 14 年の 29 万組というピークを境に減少しているようですが、昭和 45 年までは 10 万組以下でしたので、その数の多さは比較になりません。折角好き合っ一緒になったのですから、今一度、一步踏み留まり、思いやりの心でお互いを慈しみ合っはいかがでしょうか。注:プロ太とは、写真のK-PURO番犬です。(体長 10メートル・体重 1トN・無敵無敗)